

校名： 山口大学教育学部附属光小学校

所在地：〒743-0007 山口県光市室積八丁目4番1号 電話番号：(0833)78-0124

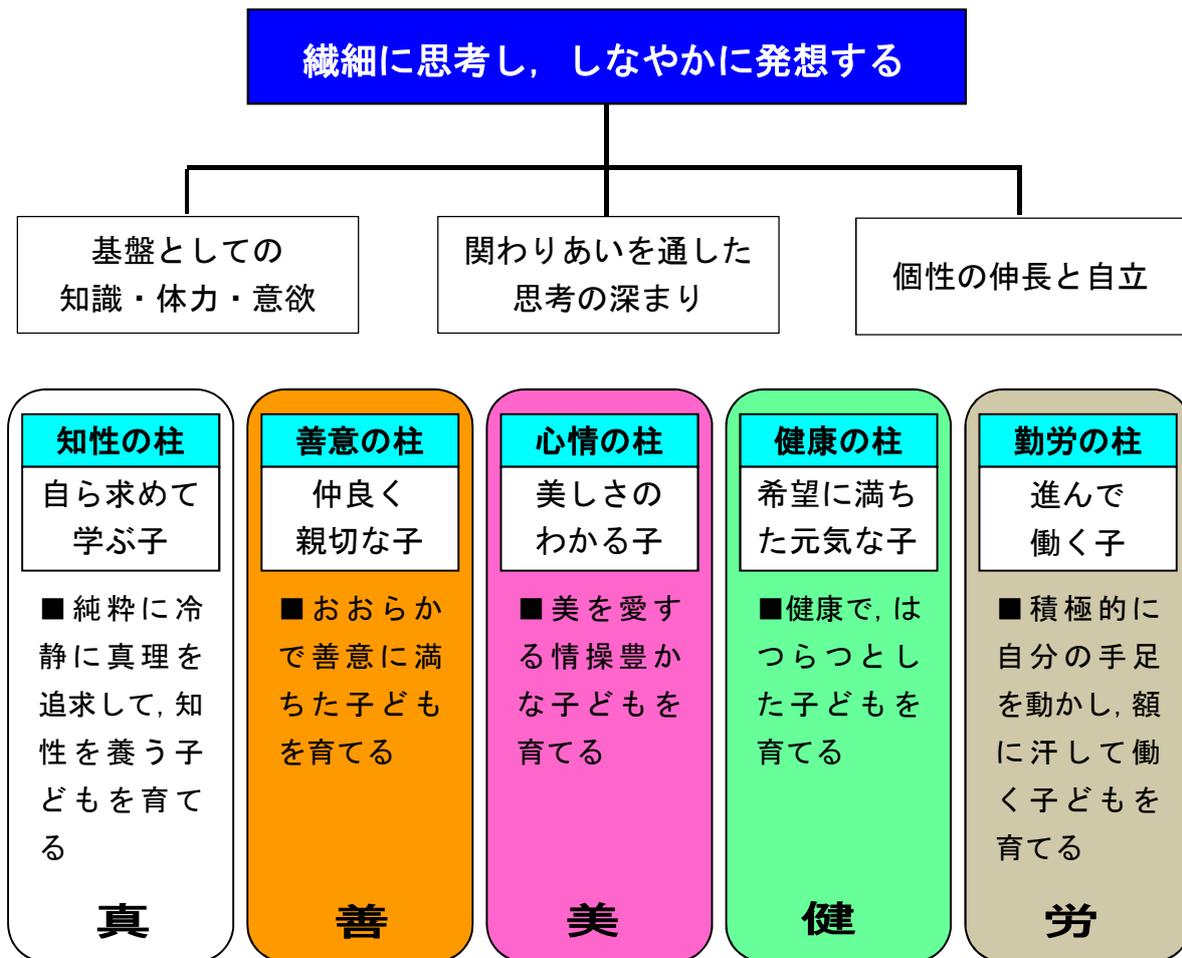
記載日：平成28年5月13日

記載者：宅野雅志

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

<学校教育目標>



- ・瀬戸内海国立公園の中に立地した、自然に恵まれた学習環境である。
- ・児童は、自ら学ぶ姿勢を持ち、積極的に授業で話し合ったり発表したりして学ぶことを楽しんでいる。
- ・異学年での活動も多く取り入れている。「ファミリー」と呼ばれる縦割り班をつくり、積極的に意見を言いながらもお互いの言葉に耳を傾け協力して活動できる親和的な集団をつくっている。毎日の清掃活動や月に1回一緒に弁当を食べ、昼休みに遊ぶ活動などを行っている。
- ・ノーチャイムで学校生活を送り、時計を見て自分で判断するなど自立的な行動を目指している。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ・過去には調査を行って名簿を作成していたが、現在は作成していない。
- ・官公庁や企業などにおいて、多数活躍している。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ・ 同人会名簿を作成している。
- ・ 教育委員会や公立学校において、多数活躍している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

(1) 早期からの外国語活動

これからグローバル化していく社会に対応するため、1年生の後期から、外国語活動の時間を取り入れている。外国語に楽しく取り組む段階を重視することで、人間関係づくりや外国語に対する興味関心にも良い影響を与えている。



(2) 自然環境を生かした取組

海と山に囲まれた自然環境を生かしたクラブ活動や理科，総合的な学習等に取り組んでいる。クラブ活動では、フィッシングクラブ，海や山での活動を行う冒険クラブである。児童の主体性を生かした活動を行っている。



(3) 小中合同授業

附属光中学校と校舎が隣接している環境を生かし、高学年児童と中学1年生の異学年編成で小中合同授業を行っている。小学生は中学生の考え方を感じることや中学校の教員と関わることで、中学校での授業や進学に興味を持っている。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

地域においては、モデル校的存在であるとする。その理由は以下の2点である。

(1) 自らモデルを示す

本校では、年に2回多くの方に学校に来ていただく機会を設定している。1つは春に行っている「教育研究発表大会」である。この研究大会には、地域からも多くの参加者が来られている。研究の方向性を説明した上で授業を見ていただき分科会で協議を行い、最後に講演を設定している。夏には、「授業について語り合う会」を行っている。これは、夏季休業中に授業づくりについて各教科で共に語り合い授業づくりのヒントとなるような会となっている。このように、本校へ来ていただき取組を示すことでモデルを示している。



(2) 校外でモデルを示す

本校教員は、地域の研究会や学校での校内研修における指導者を依頼されることが多い。また、大学の学部・附属共同プロジェクトである「授業アドバイザー」制度では教育委員会とも連携し、県東部の学校に出向いての指導助言や県学力向上推進委員会への参加など様々な取組を行っている。このように、校外へ出て各種研究会や公立学校の研修会において授業のモデルを示すようにしている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

附属学校の存在意義は本校の存在意義と重なる以下の4点の役割にあるとする。

(1) 教育実践研究校の役割

附属学校は、世界や国の動向をいち早く察知し大学や学部と連携し先導的・実験的な取組を中長期的視点から実施することができる「教育実践研究校」としての意義がある。

本校は今年度101回目、小中合同としては12回目の教育研究発表大会を行う。この教育研究発表大会を行うにあたっては、学部と連携しながら現在の学習指導要領に沿った内容であることは当然であるが、次期学習指導要領の方向性を踏まえアクティブラーニングや外国語活動の中で、書く活動を重視していくことなど提案性のあるものとなるように努力している。

また、本校は平成30年度より小中一貫校として新たなる教育活動を展開しようと考えている。全国で小中連携校、小中一貫校、さらには義務教育学校など、義務教育9年間を総合的に捉えた教育活動の重要性が唱えられているが、この地域においても「連携・協働」を合い言葉に、小中連携や小小連携などの取組が活発に行われている。そんな中で、本校が目指す「小中の枠組を残した小中一貫教育」は、公立校にとって必ずや大きな示唆となると考える。また、教科指導や、新たに教科化される道徳教育についても先進的な取組を続けており、今後も教育実践校としての役割を果たしていきたいと考えている。



(2) 教育基本実習校の役割

大学の教育学部附属小学校として、教育実習でのノウハウと実績を有している。本校における教育実習は、宿泊棟を活用したまさに「寝食を共にした」実習であり、単なる教材研究、教科指導研究にとどまることなく、教員としての精神的な部分でのトレーニングにも大きな効果があると考えている。また、本校でのノウハウを公立小学校にも積極的に発信し、地域の若手教員の教育力向上に役立てている。特に平成28年度から、光市教育委員会と連携し、新規採用教員の研修の一環として、新採教員担当指導教諭の研修の場として本校を活用するなど、副次的、多角的な貢献を果たしつつある。



(3) 地域貢献の役割

先にも述べたとおり、本校の研究発表大会等に地域の学校からも多くの方に来ていただき、教科や学校としての取組を提案している。また、各校からの要請及び教育委員会との協働による地域の教育力向上事業に取組むことで地域貢献を行っている。



(4) 人材育成の役割

公立学校との人材交流で赴任した教員が、本校での勤務を経て自分のスキルアップを図り、それを公立学校において還元することはもちろんのこと、本校では一人ひとりのキャリアステージに応じた人材育成プログラムを展開している。今後もそのような取組を進めることで、人材育成の面からも地域の中核となる学校づくりを目指している。